

## 全体会場

### 課一1 「話し合い指導」のあり方

—トークタイムの設定から—

大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校 中西 一彦

「討論」といえば、

意見を言う者が少数で、それも決まっている。

討論の動きだすのが遅く、結果として尻切れトンボに終わっている。

本音が出にくく、その場限りの討論になってしまっている。

などが反省点としていつもあがる。

そこで、1対1の「トークタイム」を体験させ、いろんな場面で活用していこう、というのが出発点であり、そこに音声表現活動が入り、ディベートが加わっていったのが、今回の実践報告である。

### 課一2 中学校におけるディベート学習

お茶の水女子大学附属中学校 花田 修一

ディベート(debate)を国語学習でどのように取り扱うか。

論理的な表現(話す・書く)の基礎力を高めるための一方法として、中学生を対象にディベート学習を試みた。

ディベート学習の目的や方法等について確認した後、グループごとに論題を決め、論理を組み立て、情報を整理し、実際にディベート討論会を行い、判定する。その後、自分の立場を文章にまとめるといった学習の手順をふんだ。

論題の決め方、ディベート討論の仕方等の反省や評価を通して、中学校におけるディベート学習のあり方について考察し、実践的究明を図りたいと思う。

### 課一3 話し合い指導に関する理論的考察

東京都立府中工業高等学校 中村 敦雄

話し合い(討論)指導に関するわが国の著書や論文を調べてみると、その多くに共通した特徴がある。すなわち、それまで話し合い指導を行ったことがない教師を対象として書かれていること、書き手には効果があったとされる具体的な指導の方法が主に紹介されていること、である。指導自体があまり行われなため、昭和20年代から現在まで時代の変化はあったものの、現在でもまだ啓蒙の段階で止まっている。それではどうしたらいいかについて、本発表では、話し合いの指導の理論的な側面から論じる。特に、場の問題、ことばの論理の問題を中心にして考察を行う。著書や論文の多くも、指導の方法を述べる中で結果的にはこの2つの問題に触れており、理論的に考察する意義があると考えられる。